

# 令和5年度リスクアセスメント講習会

木材生産現場における危険性を低減させる手法として、リスクアセスメントは危険をよみ、災害の芽をつむための効果的な手法です。このことから、災害に至る危険要因を取り除いて、災害を生じさせない安全な職場環境にすることを目的として現場に即したリスクアセスメントを実践できるように令和5年11月1日(水)に講習会を瀬尻国有林で実施しました。  
(静岡県・浜松市・林業事業者等 31名参加)



当日は、林災防静岡県支部安全指導員の今井さんに講師をお願いして、リスクアセスメントの必要性・実習(現場踏査・個人ワーク・グループワーク)・改善という実践に基づくリスクアセスメントの手法等を丁寧に講義をしてもらいました。



【実施プログラム】4グループ(各7人)に分かれて実施

- ① 主旨等の説明
- ② 現地踏査(危険因子の洗い出し及び作業計画に反映)
- ③ 個人ワーク及びグループワーク(発表)
- ④ 意見交換等

講師の今井さん

## リスクアセスメントの必要性

①リスクとアセスメントとは

リスクとは	作業現場の危険性によって生じる、作業者の怪我の「重大さ」と発生する「可能性」のレベル
アセスメントとは	作業現場のリスクを見積り、評価すること

②参加者

	リスクの特定	リスクの見積	措置の検討	措置の決定
チームリーダー	○	○	○	○
チームメンバー	○	○	○	○
プランナー	○	○	○	○
経営管理者	△	△	△	○

○ 必ず参加    △ 必要に応じて参加

③期待される効果

- ・作業現場のリスクが明確になる
- ・リスクを感じる力が養われる
- ・安全対策の優先順位が決定できる
- ・属人的な安全対策からチームワークによる安全確保となる
- ・残留リスクに対して「守るべき決め事」の理由が明確になる

皆で見て、話し合っ、決めて、情報を共有する

## リスクアセスメント実習

①現地調査

作業範囲	地形	地質	植生	沢	水源
障害物	立木状況	作業基準	アクセス	携帯電波	緊急時対応

作業計画(ディスカッション)

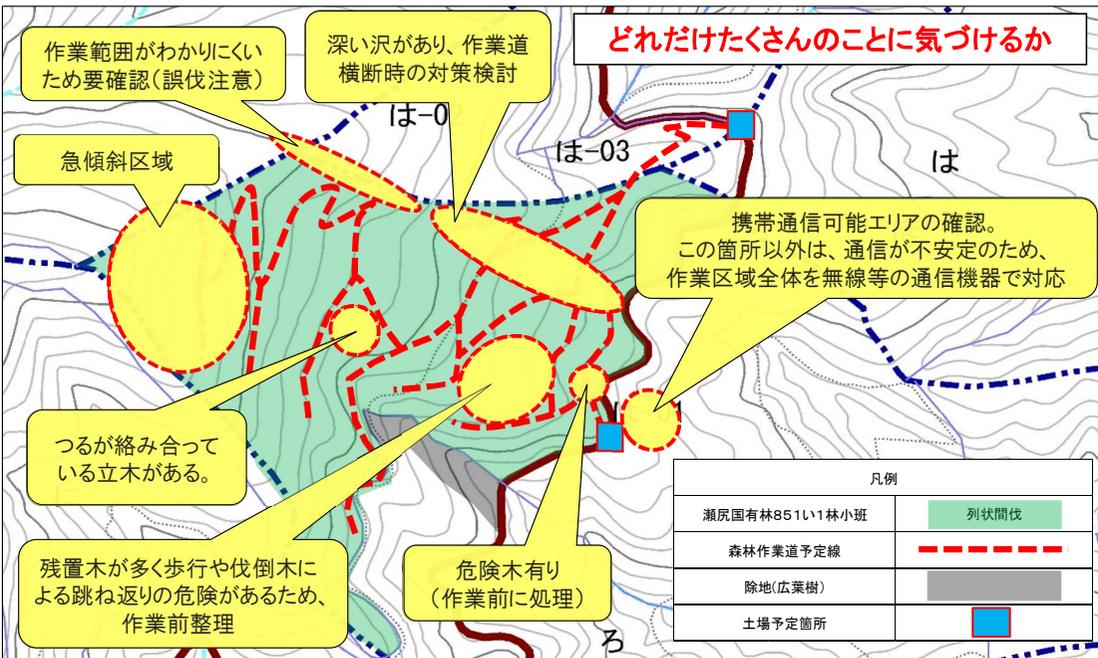


作業道作設時の安全対策等(沢横断時の安全対策等)



作業道作設安全対策確認(土壌・危険木等)

## ②踏査の際に記録を残そう



## ③現地踏査の整理及びリスク評価 (個人ワーク・グループワーク)



○ 4グループに分かれて現地踏査を実施し、リスク要因の調査、発見したリスクの記録を行った。

○ 発見したリスク要因を

①危険状態が発生する頻度

②危険状態が発生したときにケガに当たる可能性

③重大なケガの可能性

に得点をつけリスク評価を実施し、対策方法の検討、対策後のリスク評価を行い、グループごとに発表した。

参加者からは山を歩くことで、多くのリスクが潜んでいることが実感できた。現場ごとに条件が様々であり、現場ごとのリスクアセスメントが重要ということが理解できた。今後、各事業体内で安全対策情報の共有やリスクアセスメントの徹底により、天竜地域から無災害の輪を広げていきたいとの話が聞かれた。

# リスクアセスメントによる作業条件の改善

## ①手順

危険性の洗い出し

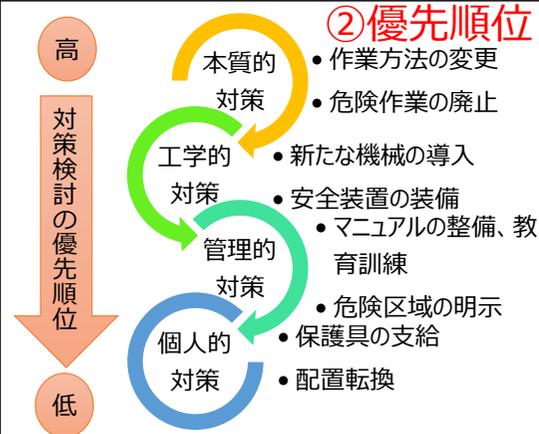
リスクの見積

リスクの優先度の決定

リスク低減措置の検討、決定

リスク低減措置の実行

## ②優先順位



## ③要件

NGワード

(注意する・気を付ける・意識する)

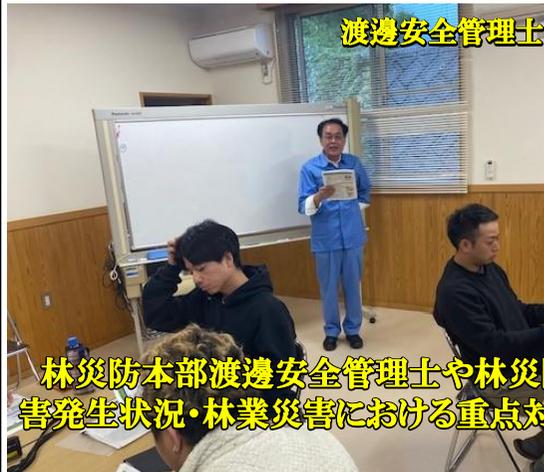
明確化(現地で危険因子を見える化)

技能訓練(訓練方法・マニュアル)

作業基準(ルール(安全用具の使用、合図)規格(伐採・作業道・機資材))

## ④活かせる情報を積極的に取得する。

情報	ヒヤリハット事例
の	労働災害事例
収集	パトロールで指摘された事例
と	作業者の不安
周知	機械の整備状況



林災防本部渡邊安全管理士や林災防静岡県支部山本事務局長から労働災害発生状況・林業災害における重点対策事項等の安全指導をして頂きました。

